

JSPE 教育部会主催 FY2025 第 3 回技術施設見学会 実施報告書

2025 年 9 月 4 日

- ・見学先： 羽田新整備場 ANA コンポーネントビル旅客機格納庫
- ・場所： 東京都大田区羽田空港 3-5-5
- ・開催者： ANA Blue Hanger Tour (ANA グループ整備部門)
- ・見学日： 令和 7 年 (2025 年) 9 月 4 日 (木) 13:00~14:15
- ・申込者： 10 名
- ・参加者： 10 名 (PN 会員 2、FE 会員 1、PE 会員 6、一般非会員 1)
- ・参加費： 無料 (交通費は参加者負担)
- ・CPD： 1.5PDH

ANA グループ整備部門では、安全運航を支える整備作業つまり整備士の「安全」に向き合う姿を一般公開しています。整備作業は 24 時間 365 日、日夜行われており、その一端をほぼ毎日 60 名ずつ 5 回に分けて、合計 300 名に紹介しております。

本 Tour への申込みは、とても人気があるため週末はおろか、平日でも募集開始から僅か 5 分で満席となるため、JSPE としては満を持して申込みに臨み、10 名分を確保しました。

JSPE としての Tour への参加は今回が初めてとなるため、周到な参加行程を立てて臨みました。当日は台風の接近もあり、午前中は羽田空港も大雨でしたが、午後は小雨となり、整備格納庫からは、整備中の大きな飛行機と共に、運行中の飛行機の発着もよく見えました。

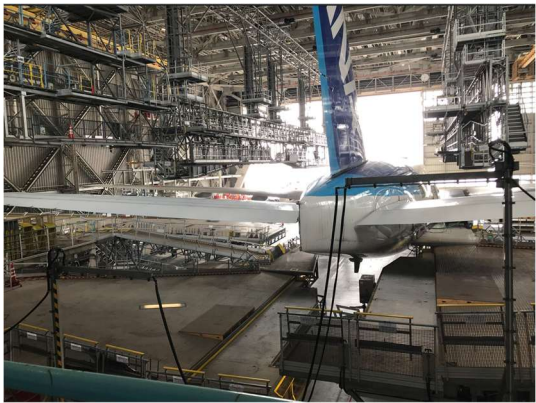
JSPE 一行は東京モノレール新整備場駅に集合した後 ANA が用意した無料の連絡バスで ANA コンポーネントメンテナンスビルへと向かい、開催者の受付をしてもらいます。



その後、まず見学の際の注意点等をブリーフィング（映像鑑賞 10 分ほど）受けてから、1 グループ 12 名ずつ（JSPE10 名+カップル 2 名）に分かれ、5 グループ各々が色の異なるヘルメットを着用（JSPE グループは青色）して、受付で配布されたグループ色（青色）のタグを首に掛け、そのタグにある 2 次元コードを改札機に読み込ませて入館しました。

エレベーターで 3 階まで上がり、いよいよ格納庫に入るのですが、その前に保安検査を受けます。制限区域に隣接するため、搭乗手続きなみの厳格さです。

格納庫に進むと見えてきたのが...



機体整備を受けている双発エンジンの大きな飛行機でした（3 階から見下ろしています）。機首コックピットの窓が 6 枚構成になっているのが大型のボーイング 787 型機です。窓のワイパーは片側ずつ独立して作動するようです。以下は地上部に降りてからの写真です。



地上電源から受電



ロールスロイス社製エンジン



エンジン解体整備中の状況

機首側面や底面に見える計測器は、温度、機体傾度、速度などの計測を行うもので、前輪格納部分には離着陸時の様子を、モニターで見るカメラを搭載している機種もあるとか。

ロールスロイス社エンジンの排気部外殻後部がギザギザになっているのは、排気騒音を低減するためで、その仕組みはともかく、着陸逆噴射時にどうなるのか興味がありますね。

最近の新しいボーイング 787 型機等の主翼は炭素繊維等で作られ、軽く強靱で飛行中はよくしなるそうで、上等の釣り竿と同じ原理で採用されているようです。それにしても近年、材料工学の進化は目覚ましいものがあると感じられました。

また機種によっては機体上部に Wi-Fi 用アンテナを格納する出っ張りが用意されており、乗客の快適さの向上に貢献しています。



一通り格納庫で 1 時間ほどの見学を終えた後、JSPE グループの参加者は皆、大満足した様子で帰路へと付きました。なお、上の集合写真のうち、右側写真後方に見える黄色のヘルメットを被った整備員さん達は、入社 1～2 年の新人さんだそうで、機体に ANA Technical Training と書かれた飛行機を整備しています。

この機体は、運用期間を終えた整備練習用のもので、現役での供用が終わった後も、若い整備士のために活用されていることを思うと、長らくお役に立てているようで、我々もそうあやかりたいと感じました。

ー以上ですー

文責： 山 村 佳 輝
(JSPE 教育部会)